

# ごけん

平成27年

秋

号

## 日本語検定 実施予定

平成27年度第2回(通算第18回)

[一般会場] **11月7日(土)**

[準会場] **11月6日(金)・7日(土)**

[申込期間] **8月1日(土)~10月9日(金)**

後援：文部科学省／日本商工会議所  
経団連事業サービス／全国連合小学校長会  
全日本中学校長会／全国高等学校長協会  
全国工業高等学校長協会／全国商業高等学校協会  
全国高等学校国語教育研究連合会  
日本PTA全国協議会  
全国高等学校PTA連合会  
日本青少年育成協会 他

特別協賛：読売新聞社

協賛：時事通信社／東京書籍



日本語検定公式キャラクター「にほんごん」

## もくじ

ごけんインタビュー 西澤 豊	— 2
ごけん情報板	— 4
採点室から	— 5
会場レポート／LINEスタンプ	— 6
日本語大賞について	— 7
受検団体の声	— 8
にほんごん にほんご劇場	— 10
受検案内／プレゼント・クイズ	— 12

特定非営利活動法人

 日本語検定委員会

# 日本語こそが社会生活の基本

## ■私と日本語

—— ジャーナリストとしての「日本語」との出会いといったことについて、お聞かせいただけますか。

日本語の思考力、すなわち日本語で考える力を養うには、「読む」訓練と「書く」訓練が必要です。これについて私自身の経験をお話ししましょう。

私が最初に配属されたのは出版局でした。そこで『世界週報』の編集者として、学者、官僚、海外特派員など、様々な分野の人の書いた文章を大量に読んだことが、語彙力や思考力を高めるのに非常に役立ちました。また、当時の海外特派員の記事はテレックスという全てローマ字表記の電文で送られてくるのですが、それを和文に起こすことをやらされました。内容を正確に理解していなければ正しい表記や意味の通る文にならないので、語彙力と読解力を身に付けるいい勉強になりました。

その後政治部に異動となりましたが、そのデスクが大変厳しい人たちで、記者が苦勞して書いた原稿を本人の目の前で丸めて捨てるという場面もよく目にしました。しかし、出版局時代の経験のおかげか、私はそういうことは比較的なくすみしました。

政治部時代の先輩から教わったのは、

「型より入りて、型より出でよ」ということです。これは世阿弥が能について述べた言葉らしいのですが、文章においても同じことが言えると思います。いい文章を書くには、まず先人たちの優れた文章を読み、その表現を真似て基本の型を覚えることです。日本語の基礎ができていなければ、自分独自の表現というものも出てこないのです。

## ■日本語の現状

——最近の日本語についてどう感じていますか。

私が気になっているのは、「カタカナ語」の氾濫と、「ネット文化」です。

カタカナ語については、例えば、福祉介護現場における「デイ・ケア」などのカタカナ。お年寄りを相手にするのに、なぜ意味の分かりにくい言い方をするのか。また、インターネット関係の言葉では、「リブート」や「デフォルト」など。「再起動」や「初期設定」と書けば分かるじゃないですか。こうしたカタカナ語が多くなったことが、日本語が乱れる原因の一つになっていると思います。

それから、ネット文化は「情報の偏食」になっていると思います。「偏食」は好きなものだけを食えるという意味ですけど、今までは色々なものに親しんできた

はずなのに、ネットでは文字によく接している割には好きなものしか見ない。また、短く、分かりやすいものしか見ないので、昔に比べて思考の幅が狭くなっているという感じがします。メールの交換にしても、短いやり取りで、使う語彙が少ないし、日本語に深みがなくなって、ものを理解する力がなくなっているという感じがします。

## ■社会における「日本語力」

——「日本語検定」が果たすべき役割についてお考えをお聞かせください。

通信社にとっては、一人ひとりの記者が財産です。そして記者は、「書く」ことを「生業<sup>なりわい</sup>」として、日本語で正確に早く情報を読者に伝える。その意味で他の何よりも日本語を大事にしている仕事です。

しかし、「書く力」が必要とされるのは、ジャーナリストに限ったことではありません。どの仕事でも、「文書」を作成して、情報や意思を伝達する作業は避けて通れません。その文書に誤字脱字や間違った言葉の使い方があって、読み手に誤解を与えたり意味の通らない文章になっていたりしたら、当座の業務に支障が出るの



はもちろんのこと、組織の対外的な信頼を損ねることにもなりかねません。

そういう意味では、言葉、日本語というものは、社会生活の基本となる大切なものです。昨今、英語教育を小さいころからやるべきという声もありますが、まず先に、日本語をしっかりと勉強することが大切です。それから、余裕があれば英語をやればいいと思います。

日本語は非常に含蓄に富んだ優れた言語です。人々がその奥深さを理解し、日本語を自分の言葉として使いこなせるようになるために、日本語検定が一助となることを願っています。

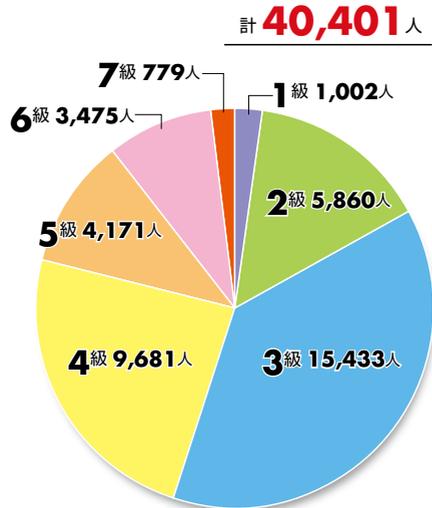
西澤豊 (にしざわ ゆたか)

1950年生まれ。1974年、株式会社時事通信社に入社。2012年より、時事通信社代表取締役社長。現在、他に内外情勢調査会会長、地方行政調査会理事長、日本新聞協会監事などを務める。日本語検定委員会理事。

おかげさまで、日本語検定は今年、9年目を迎えました。このコーナーでは、今年6月に実施いたしました、平成27年度第1回(通算第17回)日本語検定について、各級の受検者数などのデータをご紹介します。

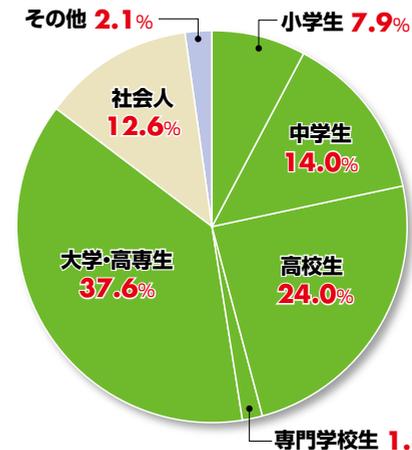
◎平成27年度第1回(通算第17回)日本語検定

■受検者総数と級別受検者数

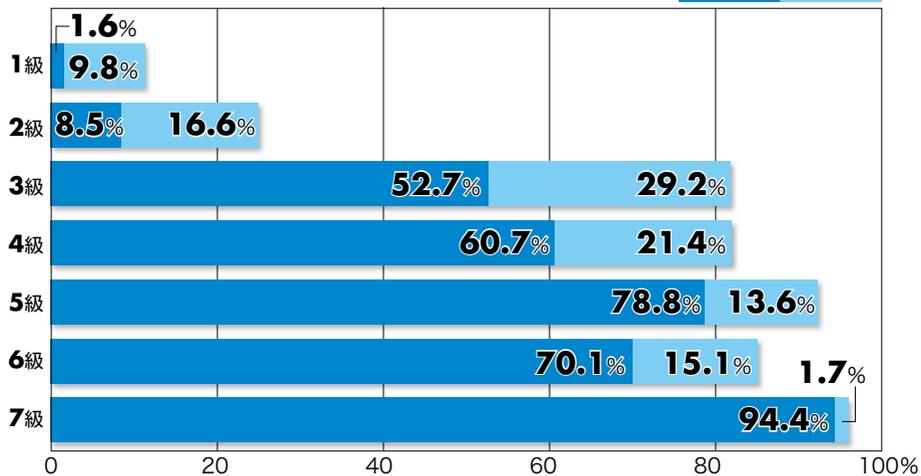


今回は、全国47都道府県の91都市に一般会場を設置しました。最年少受検者は、小学1年生(6歳)の男子で7級を受検、最年長受検者は、94歳の男性で1級を受検しました。

■受検者の属性別割合



■各級の認定率



27年度第1回の問題より

1~5級で、正答率があまり高くなかった問題(難問?)をご紹介します。いずれも、「漢字を書く」が含まれている問題です。

■3~5級では、文中で漢字の使い方が誤っている言葉を見つけ、その正しい書き表し方を記入する問題が出題されています。

- 「バスの経路が変わって、団地の前に新しい定留所ができた。」(5級問題—正答率49.3%)
- ★「定留所」は「**停留所**」が正しいのですが、この言葉の漢字がおかしいとわかって、**「停」と正しく書くことができなかった人もいたようです。**
- 「内閣の指示率が大幅に上昇したという記事が、朝刊の紙面ににぎわしている。」(4級問題—正答率23.8%)
- ★「指示率」は「**支持率**」の誤りで、それこそ新聞やテレビの世論調査の結果などでよく見かける言葉ですが、「指持」や「示持」などの解答もあって、予想外に低い正答率でした。
- 「この湾は潮の緩慢の差が大きいので、それを利用した発電施設を設置することが検討されている。」(3級問題—正答率34.7%)
- ★「緩慢」が誤っているのですが、それが分かっても「**干満**」と正しく表記するのが難しかったようです。「寒満」や「干漫」など、「干」「満」のどちらかと誤った漢字とを組み合わせた珍答?も少なくありませんでした。

■1・2級では、□に入る適切な漢字一字を書き、四字熟語を完成させる問題が出題されています。1級では、二つの文のなかからその言葉を適切に用いているほうの文を選ぶという問題とセットになっています。

- 【□色蒼然】(2級問題—正答率18.3%)  
この前泊まった旅館は、□色蒼然とした造りで、幽霊でも出そうな雰囲気だった。  
★(誤答例)「一色蒼然」「白色蒼然」(正答)「**古色蒼然**」(こしょくそうぜん)
- 【気□壮大】(2級問題—正答率18.2%)  
空を飛ぶという人類の気□壮大な夢は、二十世紀初頭、ライト兄弟によってついに実現した。  
★(誤答例)「気分壮大」(正答)「**気宇**壮大」(きうそうだい)
- 【俗□芬芬】(1級問題—正答率3.7%)  
① 第一線を退いてから早三年、今は田舎で俗□芬芬の日々を送る身だ。  
② 研究一筋の学者と聞いていたが、会ってみると俗□芬芬とした人で驚いた。  
★(誤答例)「俗俗芬芬」「俗世芬芬」(正答)「**俗臭**芬芬」(ぞくしゅうふんぶん)で②
- 【虚心□懐】(1級問題—正答率22.2%)  
① 課長は仕事はできるかもしれないが、虚心□懐の姿勢が見え隠れするので、信頼できない。  
② ここはひとつ虚心□懐に、これまでの仕事のやり方を見直してみることにしよう。  
★(誤答例)「虚心担懐」「虚心胆懐」(正答)「**虚心坦**懐」(きょしんたんかい)で②

どの問題も、文脈に即した漢字を正確に書かなければなりません。漢字そのものは決して難しい字ではありません。もちろん、取り上げられた四字熟語そのものの意味の正確な理解も不可欠です。

ここで取り上げた問題に限らず、どの級でも、正しい漢字を書けないことでつまづくケースが多くみられました。

## 会場レポート

### 東京23区会場 山野美容専門学校



6月13日(土)、社会人を中心に1150人が平成27年度第1回日本語検定1級から7級に挑戦した山野美容専門学校(東京23区的一般会場)では、梅雨の晴れ間の蒸し暑い中、半袖姿が目立ちました。検定開始30分前ごろになると、真剣な眼差しで問題集に目を通す受験生があちこちに見られ、15分前には監督者の注意事項の説明が始まりました。受験生は、級ごとに分けられた教室に20~30人ずつ入り、午前と午後の2回に分かれて受検しました。

にほんの  
LINEスタンプ  
発売中

かわいい、ゆい、ときどき丁寧。  
日本語検定公式キャラクター  
**にほん**  
LINE  
クリエイターズスタンプ  
**絶賛発売中!**

にほん Q niho-gon Q

LINEのスタンプショップにて「にほん」で検索!

## 第7回「日本語大賞」作品募集

日本語検定委員会は、日本語の持つ美しさや言葉の力を見直そうという趣旨で「日本語大賞」を設け、日本語をテーマとしたエッセイや作文を募集しています。

### テーマ:「私が使いたい言葉」

\*テーマについて、自由な発想で書いてください。例えば「このような言葉は使いたくない」という内容でもかまいません。作品にはテーマにふさわしい独自のタイトルを必ずつけてください。

【募集期間】平成27年6月1日(月)~9月30日(水)

【部門・字数】(※字数は目安です)

- ◆一般の部 2000字~3200字  
表彰:文部科学大臣賞1点/優秀賞2点/佳作5点
- ◆高校生の部 1200字~2000字  
表彰:文部科学大臣賞1点/優秀賞2点/佳作5点
- ◆中学生の部 1200字~2000字  
表彰:文部科学大臣賞1点/優秀賞3点/佳作5点
- ◆小学生の部 (高学年) 600字~1200字  
(中・低学年) 400字~1000字  
表彰:文部科学大臣賞1点/優秀賞3点/佳作5点

【応募方法】

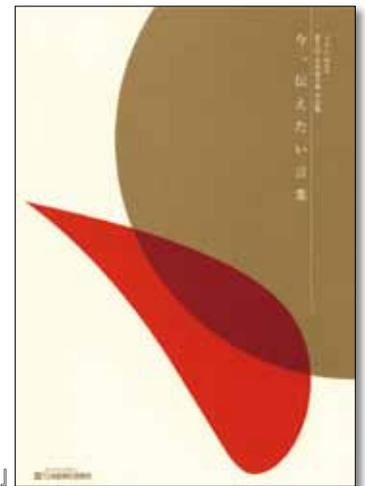
日本語検定ホームページをご覧ください。  
<http://www.nihongokentei.jp>

【作品送付先/お問い合わせ】

特定非営利活動法人  日本語検定委員会 日本語大賞係  
〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1  
☎ 03-5390-7472  
✉ [contest@nihongokentei.jp](mailto:contest@nihongokentei.jp)

\*過去の受賞作品は、日本語検定のホームページでご覧いただけます。

第6回日本語大賞 作品集「今、伝えたい言葉」



## 主体的な言葉の使い手として

福岡教育大学附属久留米小学校 萩野なぎさ先生



私たちの生活は、国際化・情報化が進展し、様々なメディアがあふれています。そのため、必要な情報や知りたい情報がすぐに手に入る時代になっており、便利な世の中になってきているといえるでしょう。しかし、その一方で、便利な方法を活用してコミュニケーションを取ろうとする場合に深刻な問題が生じています。例えば、人とのコミュニケーションも簡単なメールを使い、単語で意思疎通を図るような状況が生まれています。その際、気持ちが伝わらず誤解が生じたり、信頼関係が崩れたりといった課題も多く見られます。このような課題を解決するためにも、相手や場に応じた言葉使いであるのか適切に判断できる言語感覚を身につけ、相手の立場を理解しながら自分の考えを伝えるための「言葉の力」が一層求められるようになってきました。

そのため、日本語検定受検は、子どもたちにとって、日本語がもつ言葉の美しさや相手の立場を尊重する表現方法を知り、自分の考えを適切に伝達するための「言葉の力」を身につけるためのよい機会になると考えています。そして、子どもたちが「言葉の力」を活用できる「主体的な言葉の使い手」となり、積極的にコミュニケーションを図りながらよりよい人間関係を築くことができる人に成長することを期待しています。

## 自分の日本語力を知ることから始めよう

北海道科学大学 教授 塚越久美子先生



北海道科学大学では1年生全員が「日本語表現法」を受講し、レポートや小論文、学術論文などの作成、またグループ討論やプレゼンテーション演習を通して、日本語力全般のレベルアップを図っています。多くの学生は意欲的に取り組みますが、中には「高校までずっと国語の勉強をしたし、大学入試も終わったのだから、もう日本語の勉強は必要ない」と不満をもらす学生もいます。しかし、そういう学生も上級学年に進み専門分野の学習を深めていくと、論文を読んだり書いたりする際に、より高い日本語力が求められるようになり、自分の表現力や読解力の不足を実感することになります。

では何をどのように勉強したら日本語力が身につくのか、と悩む学生に、私はまず自分の日本語力を客観的に把握するために、日本語検定を受検することを勧めています。

## 社会に羽ばたく準備としての日本語検定

サレジオ工業高等専門学校 一般教育科准教授  
相川 智洋先生



本校は工業高専であり、学生の多くは工学・理数系科目に興味・関心を持っています。高専であることから20歳で卒業し社会に羽ばたいていく学生も多く、日ごろから適切に日本語を扱えるようになってほしいと考え、平成21年度より実施することにしました。日本語検定は企業での実施例も多く、学生も自身の将来と結びつけて取り組む傾向にあり、他の国語系検定試験よりも受検者が多い状況です。

本校の学生が不得手とする「語彙」「言葉の意味」は就職試験のSPI（適性検査）でも出題されることが多く、学生の差し迫った問題として上級生（大学1・2年次相当）が上位級に挑戦することも増えてきました。校内では夏期講習時に対策講座を設け、受検希望者への支援を実施しています。「語彙」「言葉の意味」の分野だけでなく、「敬語」や「表記」についても、社会に出る際の基礎技術として意欲的に学習する姿勢が見られます。

国語という教科に苦手意識を持ち、日ごろの言葉遣いや文章表現に無頓着であった学生たちが、日本語検定受検を通して「意識的に」かつ「適切に」日本語を扱おうと成長していく姿が多く見られるようになりました。「自己と社会をつなぐ」一つの指標として、学生には今後も日本語検定に挑戦してほしいと思います。

日本語にはさまざまな側面があり、能力を測るのはとても困難です。読書は好きなのに学術論文が理解できない、文章がすらすら書いても語彙力が乏しい、難解な漢字を多く知っていても論理的な文章が書けないなど、人それぞれに得意不得意があります。しかし日本語検定では敬語、文法、表記、語彙、言葉の意味、漢字の各分野の能力が測定されますので、苦手分野や強化すべきジャンルが客観的に分析され、学習の目標が立てやすいのが大きなメリット。授業でも検定対応のテキストを利用してテストなどを実施していますが、「わかっていたつもりでも、日本語は奥が深く、知識不足だった」「新しい言葉を知るのが楽しくなった」などの声も聞かれるようになりました。特に敬語分野の学習は、なんとなく覚えていた敬語を、体系的に学び直すいい機会になっているようです。就職活動に臨んであわてて敬語の使い方を勉強することにならないよう、授業中はみな真剣な表情です。

学生たちは在学中に、社会に出ても恥ずかしくない日本語力を身につけておく必要があります。さらに社会人となっても、年を重ねるごとに、相応の幅広い日本語の知識が必要になってくるでしょう。日本語力にはもうこれで十分というゴールはなく、いくつになっても学ぶべきことが多々あるのです。日本語検定受検をきっかけに、日本語力は努力して身につけていくものだという事を知って、挑戦する意欲を持ち続けてほしいと願っています。



絵：福政 真奈美

たいこぼん  
「太鼓判を押す」

絶対に間違いないと保証すること。  
太鼓判は、太鼓のように大きい判を表す。



印刷テクノロジーで、  
世界を変える。

**TOPPAN**

凸版印刷株式会社 〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1番地 [www.toppa.co.jp](http://www.toppa.co.jp)

ひとり、ひとりに情報のカタチを。

ひとり、一人に、「伝える」こと。

一人、ひとりに、「伝える」こと。

明細票や宅配伝票など  
誰もが利用しているビジネスフォーム。  
私たちは、ビジネスフォームの  
トップメーカーとして情報をデザイン  
することで社会と繋がっています。

トッパン・フォームズ株式会社  
本社 〒105-8311 東京都港区東新橋1-7-3 TEL.03-6253-6000 <http://www.toppa-f.co.jp/>

**TOPPAN FORMS**

Training of **ANA**  
人とビジネスにANAの研修力



ANAが培ってきたノウハウを凝縮した研修プログラムで人材育成をお手伝いします。  
※公開講座・講師派遣2形態で展開しています。

接遇&  
ビジネスマナー  
OMOTENASHI & BUSINESS MANNER

接遇とはお相手と心通じ合うように  
接すること(おもてなしをする)。  
言葉遣いの大切さなどをお伝えします。

ヒューマンエラー  
対策  
COUNTERMEASURES AGAINST HUMAN ERROR

「ヒューマンエラーはゼロにはならない。」という  
人間特性を体感したうえで、エラーの影響を  
コントロールする方法をお伝えします。

研修に関してのご質問・ご相談は、  
お気軽にお問い合わせください。

**ANA** ANAビジネスソリューション株式会社 〒108-0074 東京都港区高輪4丁目10-18  
TEL.03-5791-2910 9:00-18:00(土・日・祝・年末年始を除く) <http://www.anakenku.com/>

平成27年度  
第2回  
日本語検定  
受検案内

[一般会場] **11月7日(土)**  
 [準会場] **11月6日(金)・7日(土)**  
 [申込期間] **8月1日(土)～10月9日(金)**  
 [実施都市] 全国の約100都市で実施予定

[受検級の目安と受検料] ※受検料は税込価格です。

受検級	各級のレベル	受検料	受検の目安						
			社会人	大学生	高校生	中学生	小学校高学年	小学校中学年	小学校低学年
1級	社会人	6,000円							
2級	大学卒業程度	5,000円							
3級	高校卒業程度	3,500円							
4級	中学校卒業程度	2,000円							
5級	小学校卒業程度	1,500円							
6級	小学4年修了程度	1,500円							
7級	小学2年修了程度	1,400円							

公式ホームページ <http://www.nihongokentei.jp>

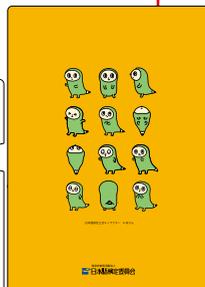
プレゼント・クイズ

問題：「にほんご にほんご劇場」で取り上げた慣用語は何でしょうか。  
 ○の部分を持って完成させてください。

『○○○を押す』

抽選で5名様に、オリジナル『にほんごクリアファイル』『にほんごメモ』セットをプレゼントいたします。はがきに、クイズの答えと、お名前、性別、年齢、ご住所、ご連絡先（お電話番号またはメールアドレス）を明記のうえ、日本語検定委員会までお送りください。平成27年11月30日の消印まで有効です。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

(応募の際の個人情報は、本プレゼント以外では使用しません。)



特定非営利活動法人  
**日本語検定委員会**

〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1

【お問い合わせ先】 **0120-55-2858**

<http://www.nihongokentei.jp>

ごけん 平成27年秋号 (No.18)